

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	日本動物専門学校
設置者名	学校法人立志舎

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
動物管理専門課程	動物看護学科（3年制）	夜・通信	2,370 時数	80×3＝240 時数	
	動物管理学科（2年制）	夜・通信	975 時数	80×2＝160 時数	
（備考）					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

HPにて授業科目一覧を公開。授業科目一覧の中で、教員の実務経験に関するチェック欄あり。（掲載： https://www.all-japan.ac.jp/disclosure/ ）

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
（困難である理由）

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	日本動物専門学校
設置者名	学校法人立志舎

1. 理事（役員）名簿の公表方法

HPにて理事名を公開している。
(掲載：<https://www.all-japan.ac.jp/disclosure/>)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社役員	2025.5.28 ～ 2028年度定 時評議員会 終結時	企画・調整
非常勤	会社員	2025.5.28 ～ 2028年度定 時評議員会 終結時	コンプライアンス
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	日本動物専門学校
設置者名	学校法人立志舎

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) (動物看護学科 昼間部 (3年制)、動物管理学科 昼間部 (2年制)) 【作成について】 作成過程 各授業科目については、年2回開催している業界関係者、有識者および学園職員で構成する教育課程編成委員会の意見を十分に生かし、学内のカリキュラム作成委員会により教育課程の作成を行い、授業科目の設定・講義内容についての検討に基づき、各授業科目の担当者が作成している。 シラバスは以下の5項目から成る。 1 科目名・開講年次・授業時数・単位数・種類・分類・授業方法・担当教員 2 講義主要目標及び講義概要 3 講義・演習項目 4 テキスト 5 成績評価 シラバス作成の際には、次の点に留意すること。 1について 「授業時数」と「単位数」との関係については、講義、演習は15時間～30時間の範囲で定める時間をもって1単位とする。また、実習は30時間～45時間をもって1単位とする。 「種類」は、科目の内容に応じて「一般科目」または「専門科目」と記入する。「分類」は、「必修」または「選択必修」と記入する。 「授業方法」は、科目の内容に応じ「講義」「演習」または「実習」と記入する。ただし、講義と演習を併用して行う場合には、主になる方を記入する。 「担当教員」は、「本学教員」または「実務経験のある教員」と記入する。 2について 学生に何を修得させるのか明確にすること。また、それをどのように実現していくのか、その方向性を示すこと。 3について 2で示した方向性をどのような内容で具体化していくのか、項目を立てて記入すること。 4について 授業で使用するテキストやプリント等を記入すること。 5について テスト等、成績評価の対象となるものを記入すること。 【時期について】 作成時期は2～3月上旬、公表時期は3月末とする。	
授業計画書の公表方法	https://www.all-japan.ac.jp/disclosure/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 授業科目の学修成果の評価についてはあらかじめ設定した成績評価の方法・基準により、厳正かつ適正に単位授与および履修認定を行うこととし、成績評価については学則第 10 条および専門課程便覧において規定している。 学則第 10 条 授業科目の成績評価は、学年末において、各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。ただし、出席時数が授業時数の 3 分の 2 に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。 具体的な成績評価方法（内容） (1) 単位は、前期試験受験者・後期試験受験者に対して考査の上、与えられる。ただし、前期試験・後期試験は、科目ごとに出席時数が授業時数の 3 分の 2 に達しない者は受けることができない。 (2) 科目ごとに出席時数が授業時数の 3 分の 2 に達しない者は、補講への出席・課題の提出を行った上で追試験を受けることができる。 (3) 前期試験・後期試験において著しく点数が低い者は再試験を受けることができる。 (4) 成績は、秀・優・良・可・不可に分け、秀・優・良・可を合格とし、不可を不合格とする。成績評価は、期末試験・授業期間中に実施するテスト・実習の成果・履修状況等を総合して判断する。 (5) 合格者の成績評価割合は、成績上位から 10%程度を秀、30%程度を優、50%程度を良、10%程度を可とする。ただし、東京法律公務員専門学校法律学科司法試験コースにおいては、100 点～90 点を秀、89 点～80 点を優、79 点～70 点を良、69 点～60 点を可とする。 (6) 合格した授業科目については、所定の単位を取得したものとする。 (7) あらかじめ設定した成績評価の方法・基準により、厳格かつ適正に単位授与および履修認定を行う。	
3. 成績評価において、G P A 等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 【G P A の算定について】 1. 学期末に、上記 2. 中の「具体的な成績評価方法（内容）」の成績評価に基づき、秀・優・良・可・不可の評価を行う。 2. 上記の評価に基づき G P A を算定する。 (1) 算定方法 ① 1 単位当たり秀：4.0、優：3.0、良：2.0、可：1.0、不可：0 とする。 ② 秀（取得科目数）優（取得科目数）良（取得科目数）可（取得科目数） $4.0 \times \text{取得単位数} + 3.0 \times \text{取得単位数} + 2.0 \times \text{取得単位数} + 1.0 \times \text{取得単位数} = \text{G P A 換算数}$ ③ $\text{G P A 換算数} \div \text{総履修単位数（不可の履修単位数を含む）} = \text{個人の G P A（小数点 3 位を四捨五入）}$ (2) 実施時期 前期（4 月から 9 月）、後期（10 月から 3 月）の 2 回実施し、3 月末に年間 G P A をシステム上で算定する。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	掲載： https://www.all-japan.ac.jp/disclosure/

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)	
1 卒業認定 修業年限以上在籍し所定の単位数を修得するとともに、以下の素養を身につけた学生に対して卒業を認定する。	
動物看護学科 動物看護コース	愛玩動物看護師試験の合格を目的とするので、動物病院内における業務に必要な技術と知識を確実に修得する。動物病院をはじめ、ペット業界で求められる動物に関する専門知識、職業遂行に必要な知識及び人間と動物が共生できるための獣医療、トリミング、ドッグトレーニングに関する技術と知識を身に付ける。
動物管理学科 グルーミングコース ドッグトレーニングコース ペットショップ&セラピーコース	ペット業界で求められる動物に関する専門知識、職業遂行に必要な知識及び人間と動物が共生できるためのトリミング、ドッグトレーニング、獣医学に関する技術と知識を身に付ける。
2 進級基準	
動物看護学科 動物看護コース	1年から2年へ進級時 28単位 2年から3年へ進級時 累計 55単位
動物管理学科 グルーミングコース	30単位
ドッグトレーニングコース	30単位
ペットショップ&セラピーコース	30単位
3 卒業単位 卒業するために必要な単位数を、次のとおりとする。	
動物看護学科 動物看護コース	81単位
動物管理学科 グルーミングコース	55単位
ドッグトレーニングコース	55単位
ペットショップ&セラピーコース	56単位
4 卒業判定会議を卒業年次の2月末に実施する。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	掲載： https://www.all-japan.ac.jp/disclosure/

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	日本動物専門学校
設置者名	学校法人立志舎

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	毎年6月上旬に最新情報をHP公開している。 https://www.all-japan.ac.jp/disclosure/
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	同上
監事による監査報告（書）	同上

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

【動物看護学科 動物看護コース（3年制）】

分野		課程名		学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		動物管理専門課程		動物看護学科 (3年制)	○	－		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数		開設している授業の種類				
				講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,400 単位時間/単位		1,320 単位時間/単位	600 単位時間/単位	870 単位時間/単位	単位時間/ 単位	単位時間/ 単位
				2,790(単位時間)/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120人		122人	0人	11人	14人	25人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等

(概要) 日本動物専門学校は、独自の教育システムである「ゼミ学習」を導入しており、動物およびビジネスに関する資格を取得し、実習を行うことにより幅広い知識や技能を身に付ける支援を行っている。クラス担任制があり、担任が学生の様々な悩みの相談にのり、学生相談室も設けられているので、学生は相談室の担当者に相談することができる。また、就職相談室を設け、就職担当者及びクラス担任が学生の就職相談、履歴書の書き方、就職先の選択、会社訪問、面接対策などの指導を行っている。さらに、学生に対して適切な指導、相談を行うためにも、出席状況、成績表、相談室のお知らせ等を年に4回保護者に送付し、必要に応じて保護者に連絡を取り、面談をしながら学生の指導を行うといった支援態勢が整っている。
--

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
43 人 （ 100%）	0 人 （ 0%）	42 人 （ 97.7%）	1 人 （ 2.3%）
（主な就職、業界等） あさか台どうぶつ医療センター、王禅寺ペットクリニック、日本動物医療センター、 動物総合医療センター高井戸、日本小動物医療センター、犬・猫の呼吸器科など			
（就職指導内容） ・業界研究 ・業種研究 ・自己分析 ・面接指導 ・新入生就職セミナー ・学内就職セミナー ・企業内インターンシップ ・進路決定のための就職、公務員ガイダンス ・就職答練			
（主な学修成果（資格・検定等））			
資格・検定名		受験者数	合格者数
愛玩動物看護師国家試験		43 人	37 人
愛玩動物飼養管理士2級		41 人	34 人
家庭動物管理士3級		43 人	46 人
サービス接遇検定2級		43 人	28 人
全日本グルーミング検定ベーシック		43 人	32 人
（令和6年度卒業生に関する令和7年5月1日時点の情報）			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
128 人	7 人	5.5%
(中途退学の主な理由) 経済的問題、体調不良のため療養、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生相談室の設置、学生との面談、保護者との電話連絡、保護者宛の郵送による出席状況報告、独自のコミュニケーション表の活用など		

【動物管理学科 グルーミングコース（２年制）】

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		動物管理専門課程	動物管理学科 (2年制)	○	-		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,720 単位時間／単位	390 単位時間 /単位	600 単位時間 /単位	825 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1,815 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
240人		204人 (内グループ ミング コース 102人)	0人	11人	14人	25人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の１．を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の３．を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の４．を参照
学修支援等
（概要） 日本動物専門学校は、独自の教育システムである「ゼミ学習」を導入しており、動物およびビジネスに関する資格を取得し、実習を行うことにより幅広い知識や技能を身に付ける支援を行っている。クラス担任制があり、担任が学生様の様々な悩みの相談にのり、学生相談室も設けられているので、学生は相談室の担当者に相談することができる。また、就職相談室を設け、就職担当者及びクラス担任が学生の就職相談、履歴書の書き方、就職先の選択、会社訪問、面接対策などの指導を行っている。さらに、学生に対して適切な指導、相談を行うためにも、出席状況、成績表、相談室のお知らせ等を年に４回保護者に送付し、必要に応じて保護者に連絡を取り、面談をしながら学生の指導を行うといった支援態勢が整っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																					
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																		
45 人 (100%)	0 人 (0%)	43 人 (95.6%)	2 人 (4.4%)																		
（主な就職、業界等） A H B、コジマ（ペットの専門店コジマ）、イオンペット、西武ペットケア、ペットショップ JOKER、ペットフォレスト、トリミングサロنبルーム、 等																					
（就職指導内容） ・ 業界研究 ・ 業種研究 ・ 自己分析 ・ 面接指導 ・ 新入生就職セミナー ・ 学内就職セミナー ・ 企業内インターンシップ ・ 進路決定のための就職、公務員ガイダンス ・ 就職答練																					
（主な学修成果（資格・検定等）） <table><tr><th>資格・検定名</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr><tr><td>愛玩動物飼養管理士 2 級</td><td>45 人</td><td>40 人</td></tr><tr><td>家庭動物管理士 3 級</td><td>45 人</td><td>45 人</td></tr><tr><td>ペットフード/ペットマナー検定</td><td>45 人</td><td>44 人</td></tr><tr><td>サービス接遇検定 2 級</td><td>45 人</td><td>27 人</td></tr><tr><td>全日本グルーミング検定スタンダード</td><td>45 人</td><td>45 人</td></tr></table>				資格・検定名	受験者数	合格者数	愛玩動物飼養管理士 2 級	45 人	40 人	家庭動物管理士 3 級	45 人	45 人	ペットフード/ペットマナー検定	45 人	44 人	サービス接遇検定 2 級	45 人	27 人	全日本グルーミング検定スタンダード	45 人	45 人
資格・検定名	受験者数	合格者数																			
愛玩動物飼養管理士 2 級	45 人	40 人																			
家庭動物管理士 3 級	45 人	45 人																			
ペットフード/ペットマナー検定	45 人	44 人																			
サービス接遇検定 2 級	45 人	27 人																			
全日本グルーミング検定スタンダード	45 人	45 人																			
（令和 6 年度卒業生に関する令和 7 年 5 月 1 日時点の情報）																					
（備考）（任意記載事項）																					

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
97 人	4 人	4.1%
（中途退学の主な理由） 経済的問題、体調不良のため療養、進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生相談室の設置、学生との面談、保護者との電話連絡、保護者宛の郵送による出席状況報告、独自のコミュニケーション表の活用など		

【動物管理学科 ドッグトレーニングコース（２年制）】

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		動物管理専門課程	動物管理学科 (2年制)	○	-		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,720 単位時間 / 単位	390 単位時間 / 単位	600 単位時間 / 単位	825 単位時間 / 単位	単位時間 / 単位	単位時間 / 単位
			1,815 単位時間 / 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
240人		204人 (内ドッグ トレーニング コース 83名)	0人	11人	14人	25人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の１．を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の３．を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の４．を参照
学修支援等
（概要） 日本動物専門学校は、独自の教育システムである「ゼミ学習」を導入しており、動物およびビジネスに関する資格を取得し、実習を行うことにより幅広い知識や技能を身に付ける支援を行っている。クラス担任制があり、担任が学生様の様々な悩みの相談にのり、学生相談室も設けられているので、学生は相談室の担当者に相談することができる。また、就職相談室を設け、就職担当者及びクラス担任が学生の就職相談、履歴書の書き方、就職先の選択、会社訪問、面接対策などの指導を行っている。さらに、学生に対して適切な指導、相談を行うためにも、出席状況、成績表、相談室のお知らせ等を年に４回保護者に送付し、必要に応じて保護者に連絡を取り、面談をしながら学生の指導を行うといった支援態勢が整っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
34 人 (100%)	0 人 (0%)	32 人 (94.1%)	2 人 (5.9%)
(主な就職、業界等)			
A H B、コジマ（ペットの専門店コジマ）、ペットショップ JOKER、犬の保育園 HOT、 いぬわん、ペットショッププチマリア、dog training bloom、等			
(就職指導内容)			
・ 業界研究 ・ 業種研究 ・ 自己分析 ・ 面接指導 ・ 新入生就職セミナー ・ 学内就職セミナー ・ 企業内インターンシップ ・ 進路決定のための就職、公務員ガイダンス ・ 就職答練			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
資格・検定名		受験者数	合格者数
愛玩動物飼養管理士 2 級		34 人	28 人
家庭動物管理士 3 級		34 人	32 人
ペットフード/ペットマナー検定		34 人	33 人
サービス接遇検定 2 級		29 人	21 人
ドッグサイエンスアドバイザー		34 人	33 人
(令和 6 年度卒業生に関する令和 7 年 5 月 1 日時点の情報)			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
77 人	1 人	1.3%
（中途退学の主な理由） 体調不良のため療養		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生相談室の設置、学生との面談、保護者との電話連絡、保護者宛の郵送による出席 状況報告、独自のコミュニケーション表の活用など		

【動物管理学科 ペットショップ&セラピーコース（２年制）】

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		動物管理専門課程	動物管理学科 (2 年制)	○	-		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1, 720 単位時間 / 単位	390 単位時間 / 単位	900 単位時間 / 単位	525 単位時間 / 単位	単位時間 / 単位	単位時間 / 単位
			1, 815 単位時間 / 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
240 人		204 人 (内ペットショップ&セラピーコース 19 人)	0 人	11 人	14 人	25 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の１．を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の３．を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の４．を参照
学修支援等
（概要） 日本動物専門学校は、独自の教育システムである「ゼミ学習」を導入しており、動物およびビジネスに関する資格を取得し、実習を行うことにより幅広い知識や技能を身に付ける支援を行っている。クラス担任制があり、担任が学生様の様々な悩みの相談にのり、学生相談室も設けられているので、学生は相談室の担当者に相談することができる。また、就職相談室を設け、就職担当者及びクラス担任が学生の就職相談、履歴書の書き方、就職先の選択、会社訪問、面接対策などの指導を行っている。さらに、学生に対して適切な指導、相談を行うためにも、出席状況、成績表、相談室のお知らせ等を年に４回保護者に送付し、必要に応じて保護者に連絡を取り、面談をしながら学生の指導を行うといった支援態勢が整っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
15 人 (100%)	0 人 (0%)	12 人 (80.0%)	3 人 (20.0%)
(主な就職、業界等)			
A H B、コジマ（ペットの専門店コジマ）、ペットショップ WAN 、アリーズ動物病院、 ペットショップ ケン&ワン、ジョージジャパン等			
(就職指導内容)			
・ 業界研究 ・ 業種研究 ・ 自己分析 ・ 面接指導 ・ 新入生就職セミナー ・ 学内就職セミナー ・ 企業内インターンシップ ・ 進路決定のための就職、公務員ガイダンス ・ 就職答練			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
資格・検定名		受験者数	合格者数
愛玩動物飼養管理士2級		15 人	12 人
家庭動物管理士3級		15 人	15 人
ペットフード/ペットマナー検定		15 人	14 人
サービス接遇検定2級		15 人	11 人
アロマセラピー検定2級		15 人	15 人
(令和6年度卒業生に関する令和7年5月1日時点の情報)			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
23 人	2 人	8.7%
（中途退学の主な理由） 体調不良のため療養、進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生相談室の設置、学生との面談、保護者との電話連絡、保護者宛の郵送による出席 状況報告、独自のコミュニケーション表の活用など		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
動物看護学科 (3 年制)	200,000 円	740,000 円	340,000 円	
動物管理学科 (2 年制)	200,000 円	740,000 円	340,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 前年度評価について、学校のHPにて公開している。 https://www.all-japan.ac.jp/disclosure/
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）
学校運営に関し、自己点検・自己評価委員会でまとめた評価および改善計画が適切であるか検証するため学校関係者評価委員会を設置する。学校関係者評価委員会は原則として年1回開催する。
(1) 評価項目は次の項目とする。
基準1（教育理念・目標）
基準2（学校運営）
基準3（教育活動）
基準4（学修成果）
基準5（学生支援）
基準6（教育環境）
基準7（学生の受け入れ募集）
基準8（財務）
基準9（法令等の遵守）
基準10（社会貢献・地域貢献）
(2) 評価委員の構成
① 定員は選出区分ごとに1人以上とする。
② 選出区分は「卒業生または保護者」「業界関係者」「高校関係者」の3区分とする。
(3) 評価結果の活用法
自己点検・自己評価委員会でまとめた報告書につき、学校関係者評価委員会の委員から受けた指摘や提言について改善に取り組んでいる。主たる内容を以下に記す。
①「御校の学生はインターンシップ実習に来るととてもしっかりしている。他校では挨拶が出来ない学生などもいるが、新入生就職セミナーのようなビジネスマナーのセミナーは年に何回実施されているか。」に対し、本学の就職への取組を回答し、理解を得た。今後も自信を持って学生の就職指導を進めていく。
②「御校のInstagramやYouTubeを見たが、他校のものと比べてやられている感がなく、学生が活き活きとしている様子が見られ、募集する立場からすると大変参考になった。」今後も学校の様子を積極的に情報発信していく。
③「ドッグトレーナーの仕事として、犬へのトレーニングの技術も重要だが、飼い主に話したり教えたりする経験がさらに重要である。様々なイベント等を通じて、そのような機会が多く設けられているのは学生にとってとても良い。今後もさらに増やしていただきたい。」引き続き、イベントの参加を積極的に行い、ド

ッグトレーナーだけでなく、他コースの学生にも機会を与えられるようにしていく。 ④「時代に応じて様々なことに柔軟な対応をしているという印象を受けた。学生の母数がさらに減少していく中、これとどう向き合っていくかが企業を含め課題であるとする。」様々な状況の変化に対応できるように、情報収集等にも気を配り、柔軟な姿勢で指導していく。 ⑤「地域貢献など今後も続けていただきたい。またゴミ拾いなどは、学校犬の散歩とともに行うのもよい。犬との散歩は、近隣住民からの苦情などで行きにくい状況もあるが、ゴミ拾いも兼ねることで犬の散歩へのイメージアップや地域貢献に繋がると思う。」学校犬の散歩時にも、ゴミ拾いを平行しておこない、清掃活動を行っていく。 ⑥「学校運営において、近隣住民の理解は必要。社会貢献は今後も増やしていったほしい。スクールカウンセラーの導入などを行うことによって、教職員のストレスや業務負担を軽減し、より学生指導の充実を行い、より良い人材を育て社会に送り出していきたい。」スクールカウンセラーの導入を推進していく。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
立志舎高等学校 事務長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	高校関係者
一般社団法人全国ペット協会 副会長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	業界関係者
株式会社荏谷動物病院グループ 管理部人事労務課長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	業界関係者
株式会社 Dog Nit's 代表取締役社長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 前年度評価について、学校のHPにて公開している。 https://www.all-japan.ac.jp/disclosure/		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)	
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)	
本校トップページ	https://www.nihondoubutsu.ac.jp/
法人(学園) トップページ	https://www.all-japan.ac.jp/

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	H113311500076
学校名（〇〇大学 等）	日本動物専門学校
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人 立志舎

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		55 人（－ 人）	50 人（0 人）	55 人（－人）
内 訳	第Ⅰ区分	31 人	28 人	
	（うち多子世帯）	（0人）	（0人）	
	第Ⅱ区分	－ 人	13 人	
	（うち多子世帯）	（0人）	（0人）	
	第Ⅲ区分	13 人	－ 人	
	（うち多子世帯）	（0人）	（0人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0 人	0 人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	－ 人	0 人	
	区分外（多子世帯）	0 人	0 人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0 人（0人）
合計（年間）				55 人（－人）
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	0人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	-人
3月以上の停学	0人
年間計	-人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	0人	0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	-人	0人	-人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	0人	-人
計	-人	0人	-人
(備考) (3)退学者1名、後期退学時適格認定「GPA等が下位4分の1」「出席率が「警告」の基準に該当」に当てはまり警告判定となるが、上記表には含めず。			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。